

東京 IPO 特別コラム

2020年6月18日 Vol.161

コロナ禍を跳ねのけて堅調な株式相場

3月半ばにかけてのコロナクラッシュから3か月余りを経過し、やや頭打ち気味ながら想定した以上に堅調な展開が見られる株式相場。政策対応による米国株高に加え、日本でも大規模な資金投入による政策対応が下支えとなり市場には過剰流動性相場を意識する各投資家のリスクテイクの動きが活発化しているものと拝察される。こうした中で2か月のブランクがあったIPO市場に6月24日以降、また続々とニューフェイスが登場してくる。4月IPOの上場承認取り消しが相次ぐ一方で、全体相場が戻り歩調となる中で年初からのIPO銘柄にも一時的急落場面から脱して好需給を背景に急騰を演じる銘柄が続出。全体的に明るさが出ている状況で6月から再開されるIPO相場も関心を集めるものと期待される。特に6月から7月にかけてのIPOにはコロナ禍による社会生活の大変化を背景にした時流に沿った銘柄が相次ぐ。以下に6月の6銘柄を掲げておいたので参照願いたい。(データは会社公表値)

1.コパ・コーポレーション(7689・M) 公開日 24日

実演販売を利用した商品卸売業 公開株数最大 71.3万株 公開価格 2000円
2021.3期売上高 56億円、営業利益 7億円(▲17.9%) 経常利益 7億円(▲18.9%)
EPS 172.9円 公開価格PER 11.6倍

2019.3期売上高 35億円、経常利益 4.8億円

⇒2020.3期売上高 56億円、経常利益 8.6億円 EPS 233.9円

9月までのコロナの影響を見込んで今期業績を計画。過去2期間はメディアでの露出によるプラスの影響が出たと言う点もあって今期の業績はやや慎重な見通し。テレビ通販、Eコマース(デモカウ)などコロナ自粛によるプラス面を評価して人気化想定。

2.ロコガイド(4497・M) 同 24日 チラシ・買物情報サービス「トクバイ」運営 公開株数最大 259万株 公開価格 2000円

2021.3期売上高 18.7億円(+31.5%)、営業利益 5億円(+47.7%)、経常利益 4.9億円(+43.7%) EPS 38.5円 公開価格PER 51.9倍

2019.3期売上高 10億円、経常利益 1.45億円

⇒2020.3期売上高 14.2億円、経常利益 3.4億円、EPS 31.5円

情報マッチングサイト「トクバイ」を運営。旧社名はトクバイ。食品スーパーやドラッグストア、ホームセンター向けが主でコロナのプラスの影響を受けて業績の伸びが続く。店舗内混雑状況が判別できる混雑ランプサービスを提供するなど話題も。

3.フィーチャ(4052・M) 同 24日 画像認識ソフトウェア開発、公開株数最大 66.7万株、公開価格 520円

2020.6期売上高 4億円、営業利益 0.72億円(―)、経常利益 0.63億円(―)
EPS 7.9円 公開価格PER 65.8倍

2019.6期売上高 2.8億円 経常利益▲0.05億円

⇒2020.6期3Q売上高 3.11億円、経常利益 0.74億円 EPS 10円

東京 IPO 特別コラム

自動運転絡みの研究開発型企業。企業規模小さく、評価は難しい。コロナの影響は薄れる。初値穏健となる可能性もあるが、高過ぎる（公開価格比3倍以上）と後で咎めが出る恐れもあるだろう。

4.コマースOneホールディングス（4496・M） 同 26 日 ECプラットフォーム

公開株数最大 61.4 万株 公開価格 1600 円

2021.3 期売上高 22.5 億円（+3.6%）営業利益 3.4 億円（▲8.4%）

経常利益 3.45 億円（▲19.8%）EPS60.63 円 公開上限価格PER26.4 倍

2019.3 期売上高 19.5 億円、経常利益 3.57 億円

⇒2020.3 期売上高 21.67 億円、経常利益 4.3 億円 EPS81.06 円

EC事業者向けビジネスインフラ提供企業。コロナ禍で在宅消費が拡大し業績の成長を見込む。

5.エプレン（6599・JQ）同 29 日 産業用電子機器 工業用コンピューター

公開株数最大 31 万株 公開価格 1350 円

2021.3 期売上高 33.74 億円（+6.0）営業利益 3.37 億円（+19.1%）

経常利益 3.14 億円（+3.5%）EPS140.4 円 1 株配当金 18 円

2019.3 期売上高 33.1 億円、経常利益 3.88 億円、同配当金 10 円

2020.3 期売上高 31.8 億円、経常利益 3.0 億円、EPS146.7 円 配当金 15 円

防衛関連製品も手掛ける。中国・蘇州に連結子会社。期待したオリンピック絡みの特需は減少。原子力、医療機器、半導体関連、EVなど多岐に渡る成長分野と関連。AI 関連、ディープラーニング用HPCの需要増を期待。ジャスタック銘柄でマザーズに比べると人気薄い可能性あるが、公開価格は比較的割安感あり。

6.グッドパッチ（7351・M）同 30 日 UI/UXデザイン支援事業

公開株数最大 75.8 万株 公開価格上限 690 円（22 日決定）

2020.8 期売上高 23.37 億円（+32.9%）、営業利益 2.06 億円（+174.4%）

経常利益 2.05 億円（+145.8%）EPS30.7 円 公開価格PER22.5 倍

2019.8 期 売上高 16.83 億円 経常利益 0.83 億円

⇒2020.8 期第 2Q売上高 11.21 億円、経常利益 1.6 億円 EPS24.79 円

デザインの力を証明すると言うミッションの下で事業展開。遠隔コミュニケーションによる展開でコロナの影響は小さい。収益の柱で年率 11%成長のデザインパートナー事業と小規模で収益貢献がまだない急拡大中のデザインプラットフォーム事業の 2 つで成り立つ。

待望の IPO 相場の再開で皆様の期待も高まっているかと思いますが、じっくりと研究の上、取り組まれますことを期待しております。

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）